

ほつかいどう NIE 通信

発行 北海道 NIE 推進協議会

発行 北海道NIE推進協議会 〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

新聞社勤めの父は、私が小学校3年の時、49歳で他界した。翌年、山岳部だつた大学3年の兄は年末から大雪山冬山完全縦走を試みることになつていた。その矢先、兄が、応募していた学生美術全道展の彫刻部門で入賞した。くしくも父が勤務していた新聞社の賞だった。

ただ、授賞式と冬山縦走の日程は重なつていた。3年間、このために訓練した大雪山冬山縦走だ。兄は授賞式を欠席しようとしたが、いつもは口を出さない母が、頑として譲らなかつた。「この賞はお父さんがおまえにくれたもの。山に

山岳パーティー遭難の知らせが届いたのは兄が札幌から戻った3日後だった。兄は山岳部の親友10人を失つた。父が他界した時、一番下の妹がまだ幼稚園で、兄が家庭教師をしながら家



新聞との不思議な縁

函館市立的場中校長 藤井壽夫

就くケースが多かつた。
うち3分の1を超す12社が10年以降の設置、と答
進組織がある、と回答。組織トップに社長ら役員が

は入らず絶対に授賞式に出なさい」。父が他界して1年しかたっていなかつたこともあつたと思う。最後は兄も折れて大雪縦走を諦め、札幌市での授賞式に出席した。

計を助け、お金が入る日は決まってショートケーキを買ってきた。

た授業を多く行ってきた。
新聞には、学校では得られない実践的成果があると思う。思い出深いのは、新聞の写真だけを拡大して、その写真から①わかること②考えられること③

社内組織は30社がN.I.E委員会「教育と新聞」推進本部などの横断的な推進組織がある、と回答。組織トップに社長ら役員が就くケースが多かった。うち3分の1を超す12社が10年以降の設置、と答

え、新聞活用が明記された新学習指導要領がスタートした11年度に合わせ、関連組織を整えた様子がうかがえる。教育界出身のコーディネーターを置く社も、北海道新聞など17社（前回13社）に増えた。

の配信記事を組み合わせ構成が多かった。「新指要領に対応した取り組みとして、47社が紙面改革回答、子ども向け紙面の設・拡充など、編集上の夫もしていた。ほか親子教員を対象に各種イベン

日本新聞協会主催のN.E.推進協議会事務局長会が1月25日、東京の日本レスセンタービルで開かれた。写真II。

2011年度 NIE展開調査

日本新聞協会が新聞・通信各社に隔年で行っている「NIE展開状況調査」の2011年の結果がまとまつた。回答78社のうち、NIE関連の社内組織を設けたところが30社、うち12社にらんでNIEへの取り組みに本腰を入れ始めた傾向が浮かび上がつた。

12社が社内組織を新設

新指導要領受け本腰

の開催（20社）、地域教育界との協定締結など連携強化（16社）もあった。NIE活動の展望については、すそ野を広げる教育界との関係の構築、学校へのサポートの必要性を指摘する声が目立つ半面、NIEの受け止め方に地域差、教師間の温度差があるとの意見もあった。

道研のNIE



分ける学習に展開した。新聞記事をばらばらにし、順番を整えて文章ににする授業も行った。なかなか難しい作業だが、前後させても意味が通るもの教材に議論する。最後に記事全文を見て授業を終える。生徒は文章の順序、わかりやすい文とは何かを学ぶ。

私は本年度限りで定年を迎えるが、現任校がNIEと関わり、新聞を教材に積極活用した数々の授業実践も行つてきた。そうした授業を参観する度に、新聞との絆を再認識し、あらためて新聞の教材としての魅力、可能性を強く感じる。

北海道新聞ホームページ「NIE」(www.doshin-nie.com)でバックナンバーから閲覧できます

地域の伝統文化を取材

札幌・緑丘小



記事などを使い、子どもみこしの意味を考えた緑丘小の授業

札幌市中央区の住宅街にある札幌市立緑丘小。3年生を受け持つ野崎猛教諭が神社・祭り・みこしの意味を考える授業と取り組んだ。近くの「札幌伏見稲荷神社」は100年を超す歴史があり、「例祭」で子どもみこしや相撲大会が行われ

みこしといえば、浅草三社だけではない。秋のみに感謝し、自分たちの地域の伝統として守ってきた祭りやみこしの意味を考える小学校の授業を見た。夏の北海道祭の「子どもみこし」を紹介した新聞記事で身近な行事に触れ、これに教師自ら関係者に聞いた、生きた情報を加えることでクラスの活動意見を引き出す取り組みだ。

(北海道新聞NIE推進センター委員 大井一樹)

「みこし」実現の苦心知る

実践校
リポート

図表読み解く 実践発表

道国語教育連盟

辻大和(みこし)会・北

海陸の間宮明雄会長にインタビューに出掛け、そこで会長に開催までは容易でなかつた事実を知らされた。

2月7日の授業ではこの

か使えないとしたら、どれを外すか」という課題を示し、図表を根拠とした「事実」とそれ以外の「筆者の考え方」を分けて考察した。

さらに、生徒自身が図表を活用していく学習に発展させた。「誰にでもわかる! 図解『シカの落ち穂拾い』」と題したワーケシートを用意して図の中から4つを使って筆者が抱く疑問と事実、仮説を整理し

すると、児童たちから次々に手が挙がった。「ほかの地域の人たちにも楽しませたい」「子どもが頑張っている姿を親に見せたい」と考えた「楽しいみこしを子どもにも経験させたい」。

祭りの形で地域と伝統を担う?」。すると、児童たちから次々に手が挙がった。「ほかの地域の人たちにも楽しませたい」「子どもが頑張っている姿を親に見せたい」と考えた「楽しいみこしを子どもにも経験させたい」。

すると、児童たちから次々に手が挙がった。「ほかの地域の人たちにも楽しませたい」「子どもが頑張っている姿を親に見せたい」と考えた「楽しいみこしを子どもにも経験させたい」。

すると、児童たちから次々に手が挙がった。「ほかの地域の人たちにも楽しませたい」「子どもが頑張っている姿を親に見せたい」と考えた「楽しいみこしを子どもにも経験させたい」。

すると、児童たちから次々に手が挙がった。「ほかの地域の人たちにも楽しませたい」「子どもが頑張っている姿を親に見せたい」と考えた「楽しいみこしを子どもにも経験させたい」。

すると、児童たちから次々に手が挙がった。「ほかの地域の人たちにも楽しませたい」「子どもが頑張っている姿を親に見せたい」と考えた「楽しいみこしを子どもにも経験させたい」。

新年度、完全実施になる中学校の学習指導要領は、国語科で「文章と図表の関わりを考えながら読むこと」を重視している。新聞ではおなじみの構成だが、子どもたちにはなじみが薄く、どう指導するか不安を持つ教師も多い。1月7日に札幌市内で開かれた道国語教育連盟の研究交流学習会で、同市立前田北中の新井拓教諭がこのテーマを扱つた来年度の教科書を使う授業実践を報告、参加教諭ら約100人と課題などを考えた^{II写真II}。新井教諭は新年度から札幌市で採用される光村図書の教科書から、1年の「シ

教科書には「落ち穂拾い」が観察できた月ごとの時間数やシカが採食した植物の種類、シカの体重変化など、5つの図表が掲載されている。同教諭は生徒たちに、本文と対応する図表を確認させ、その効果を考えさせた。



セントラル委員 舟木理依

現場で読み解く

新 学習指導要領

6



たかつじ・きよとし
日本NIE学会理事。
道NIE推進協議会会長。
道NIE研究会元会長。
札幌・陵陽中校長を経て道
推進協の前コーディネー
ターに。北学園大、天使
大元非常勤講師。1939年
札幌市出身。

大別される。専門・専修学
校、大学は社会福祉、介護、
栄養、看護、外国人向け日
本語指導などに活用され
る。新聞活用は実践的学力
や問題解決、情報活用力の
育成を目指し、「生きる力」
を育てる学習材として有効
といえる。

学校は、価値の多様化に
応じた、新たな学習環境が
求められている。NIE活動
は「OECD生徒の学習
到達度調査(PISA)」が
求める未来型学力に応じた
実践と取り組んできた。そ
の成果が実り、新学習指導
の枠組みで開かれた。

用しても自己満足に陥つて
しまうなど、客観的評価は
得られにくい。しかし、校
内研究へとその輪が広が
り、教育課程に位置付けら
れると、全職員共通の理解
に立った教材が共有でき、
子どもの学習習慣、学力向
向上に役立つ。

高い学力をつける、特色
ある教育課程をどう編成す
るか。学校はいま対応に苦
慮している。目標を定め、
意図的・継続的にNIEを
導入したい。「教師が変わ
れば、子どもが変わる」。

7月30日(月)と31日(火)
の2日間で、福井新聞社、
高文連の新聞指導研究会が
福井県NIE推進協議会が
主催する。大会スローガン
は「考える人」になる——

福井の全国大会
7月30、31日に

お知らせ

かそう新聞 伸ばそら生き
る力」。
30日の全体会(フェニッ
クス・プラザ)は記念講演
とパネルディスカッション
がある。講演は反貧困ネット
ワーク事務局長、内閣府
参与の湯浅誠さん。31日の
授業実践発表、特別分科
会、教師向けワークショッ
プが行われる。

新聞指導研開く
高文連

白老東高の平野撰子元教
諭が「学校があつて新聞が
ある」札幌西高の秋田隆
之教諭が「新聞レイアウト
の基礎知識」をテーマに高
校での新聞制作の現状や課
題についてそれぞれリポー
トした。

このあと、北海学園大經
済学部の川村雅則准教授が
「若者は今どんなんうに働
いているか」をテーマに講
義した。非正規労働など嚴
しい環境の下で働くかざるを
得ないケースなども紹介
し、それをもとに参加者た
ちと意見を交わした。